

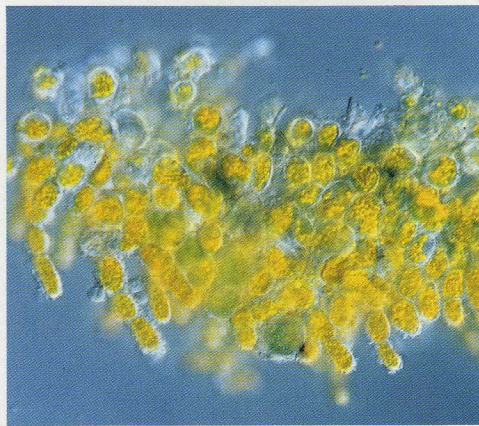
PHOTO ESSAY

東広島キャンパスの自然(植物)

-17-

理学研究科生物科学専攻
博士課程後期3年

飯田高明



スミレモ

スミレの匂いがする藻？

Trentepohlia lagenifera

古いコンクリートの壁や、石垣あるいは木の幹が、鮮やかなオレンジ色に染まっているのを見かけたことがないだろうか。もし見かけたならば、この正体は、おそらく藻類のスミレモだと思われる。

藻類といえば水の中、これは誰もが知っている一般常識だが、常識には例外がつきものである。その例外の一つがこれから紹介するスミレモである。スミレモは水中に生育せず、その一生を陸上で生活するという一風変わった藻類（気生藻類という）で、暖かいところを好み、熱帯を生育の中心として世界中に分布している。スミレモは分類学的には緑藻類という部類に入る。

しかし、スミレモは緑藻類の名にふさわしくなく、体がオレンジ色である。実は、このオレンジ色の正体はニンジンでよく知られるカロチノイド系の色素であり、スミレモはこの色素をよく蓄積する。場所によってはこの色素がほとんど蓄積されず、体が緑色になったスミレモも観察され、緑藻類であることが納得できる。

ところで、このスミレモは、古くからスミレの匂いがするというところでこの和名がつけられたようである。しかしながら、私は幾度となくスミレモを採集したが、何の匂いも感じたことはない。藻類研究の第一人者、故廣瀬弘幸博士もスミレの匂いを感じなかったことを日本淡水藻図鑑の中で述べている。

ところが、ヨーロッパ人にはスミレの匂いがするようである。平成5年に、横浜で開催された国際植物学会議に出席した折、私はフィンランドの学者と話をする機会があった。フィンランドのような寒い地域にもスミレモはあるのだろうかと聞いてみたところ、「スミレモはフィンランドにも普通に生えており、スミレのいい香りがする。」という答えが返ってきて非常に驚いた。日本人とヨーロッパ人では匂いの感じ方が違うのだろうか。いまだもって謎である。

さて、広島大学キャンパス内にもスミレモは生育しているだろうかとあたりを探したところ、理学部A棟前の雑木林にそれらしきものがみつかった。木の幹がオレンジ色をしていたのだ。さっそく、研究室に持ち帰って顕微鏡で調べたところ、やはりスミレモの一種で、*Trentepohlia lagenifera* という種類であることが解ったのだが、やはりスミレの匂いはまったくしなかった。

みなさんも暇なときには散歩がてら、このスミレモを探してみてはいかがでしょうか。もしかすると、みなさんにはスミレのいい香りがするのかもしれない。